

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 鈴木智	
日 時	平成27年5月25日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 15 分
出席委員	◎石野 ○山本 酒井 奥野 並河 小松 竹田		
執行機関出席者	<政策推進室>桂室長 <政策推進課>竹村課長、垣見副課長、川内主幹		
事務局出席者	藤村局長、鈴木係長		
傍聴者	市民1名	報道関係者 一名	議員0名()

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

〔石野委員長 開議〕

〔事務局 日程説明〕

〔政策推進室 入室〕

2 議題

○平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画について

10:03

<政策推進室長>

〔出席職員紹介〕

10:04

〔政策推進課長 説明〕

- ・コミュニティバス、ふるさとバス、京阪京都交通バスにより市内の公共交通ネットワークを形成するのが現在の状況。
- ・コミュニティバスはH16から本格運行開始。東コース10便、西コース16便を1台のバスで運行している。
- ・ふるさとバスはH17年から運行開始。5路線13系統を5台のバスで運行。H27年度は篠町のコミュニティバスを試験的に運行する。

10:06

〔政策推進課副課長 資料に基づき説明〕

10:40

〔質 疑〕

<並河委員>

- ① 土日の一日乗車券の販売所はどこか。
- ② 南部地域のデマンドバスの見通しは。

③ 篠町でデマンドバスの試験運転をする際の車両の乗車人数は。

<政策推進課副課長>

① 亀岡駅の販売がメインだが、京阪京都交通バスの車内で販売している。

② 南部の空白地域のデマンドバス対応には課題がある。実際にご利用いただく方の意見を聞く場を設けるなど地域と協議して方向性を決定したい。

③ ふるさとバスの中型車両の中古車で運行したい。

<並河委員>

南部地域のデマンドバスは、今年試験運行まで実施するのか。

<政策推進課副課長>

実施するには関係機関の認可のための時間や警察との協議も必要であり、半年から一年くらいは時間が必要。

<並河委員>

南部地域のデマンドバスを実施する方向性は決定しているのか。

<政策推進課長>

デマンドバスを実施することは地域交通計画にも記載されており、その方向性で検討している。デマンドバスにも色々な手法があり、東・西別院の地形にあわせたもので、路線バスを生かしたところから始める必要があると考えている。タクシーのようなデマンドバスとして実施することは難しいと考えるが、地域の方の意見も聞きながら考えていきたい。

<小松委員>

空白地域の解消はよく分かるが、高齢化対策を考えていく必要がある。西つつじヶ丘は斜面がきつくバス停に行くまでにも体に負担がかかる。免許証返納制度により車の運転ができなくなった高齢者の人口が密集する地域の対策は。

<政策推進課長>

高齢者が車の免許証を返納した場合、タクシーチケットを受け取る方が6割、バスチケットを受け取る方が4割の比率と聞いており、バス利用への期待は高いと考える。公共交通として市民の交通手段の確保をどこまで行うか、十分に意見を聞きながら考えていきたい。また、西つつじヶ丘美山台では低床バスの車体の底が道路に擦るので乗り入れは難しいと考えるが、南つつじヶ丘等の地域も含め市民の交通の便が必要であることは十分に認識している。

<奥野委員>

畑野町ではバス停まで行く手段がない。隣近所の助け合いもあるが、今後公的な手段を検討いただければと考える。要望としたい。

<並河委員>

交通手段の確保は市の周辺部だけでなく、大井町などの住宅団地に住む方にとっても課題。地域循環型バスの運行が必要かと考える。

<政策推進課長>

市民の交通環境においても高齢化に直面しているのが現状。並河駅周辺もバスを運行しているが乗車人数は少なく路線の検討もしていきたい。バス利用が少ないのも現実である。すべての市民の交通手段の確保を行政ができるものではなく、近隣との助け合いも期待する。今すぐには答えは出ないがこのような課題に直面している状況である。福祉施策も考える中で検討する必要がある。

<並河委員>

どこに税金を使うかを考え、バランスよく実行していただきたい。

<竹田委員>

公共交通でいつまでも実施すると財政負担がかかる。南部地域でのデマンドバス実施の次は福祉と連携していくことが必要。市の考えを議会にも明確にしていれば良いと考える。

<酒井委員>

亀岡市地域公共交通計画を策定いただいている。多額の財政負担が発生するが、地域公共交通協議会の中で地域の実情を踏まえ利害調整を行っていただいていると考える。今後はマネジメントを議会として見ていく必要があり、情報共有していく中で議論を深められたらと考える。

<山本副委員長>

公共交通はどれだけの財政負担がかかっているか、また、路線バスには実際には乗客が少ないなどの現状を地域にも話していただき、デマンドバスの取り組みを一緒に考えていただきたい。また、福祉施策と公共交通施策の考え方も関係部署と連携してできるだけ早く進めていただきたい。

<政策推進課長>

計画のマネジメントを大切に考え、今後の施策の検討を進めたい。

<石野委員長>

篠地域での施策に期待したい。

〔政策推進室 退室〕

11:05

○委員会調査について

<石野委員長>

今後の特別委員会の進め方についてご意見を。地域公共交通計画の報告とともに、視察も含めて調査を進めていくのも一つの方法かと考える。

<竹田委員>

特別委員会として何をどう行うかを明確にする必要がある。現行のままなら常任委員会に所管を返せるのでは。今年度中に区切りをつけたらと考える。また、視察を実施する必要性はあまりないと考える。

<山本副委員長>

亀岡の南部地域でのデマンドバスは、路線バスを残しながら実施する方法は難しい部分がある。亀岡市で実施するデマンドバスの方法に合った自治体があれば視察を実施すれば良いと考える。

<並河委員>

デマンドバスは新しい試みであり手さぐりの状況である。南丹市や綾部市等に視察に行けば良いと思う。

<竹田委員>

福祉バスもやっている南丹市へはすでに視察に行っている。方向性がまだ出ていない状況であるならば視察に行っても良いが、亀岡市ではデマンド方式を実施する方向が出ている。定期的に計画を検証していけばよいと考える。近隣自治体からの資料を提供いただき共有して考えていけばよい。

<山本副委員長>

路線バスを残してデマンドバスを実施する方法は競合することもあるのでなかなかできない。地域の方からの意見を聞きながら路線バスを残してデマンドバスを実

施している自治体があれば視察に行って話を聞きたい。

<竹田委員>

情報としてであれば、資料をもらえば済むことである。南部地域の住民の話を聞くような調査は大切と考える。

<石野委員長>

執行部からは順次報告を受けながら、特別委員会を実施していければと考える。

<並河委員>

委員も新たになったこともあるので、地元の声を直接聞くことも大事だと考える。

<鈴木係長>

地域公共交通計画に沿って執行部が施策を実施されているかの状況を見ながら説明を求めるのも一つの方法であり、視察も必要であると判断されるのであれば必要に応じて実施いただければと考える。

<奥野委員>

結局、委員会としてはどのように調査を実施していくのか。

<石野委員長>

地域公共交通計画に沿って執行部から順次報告を受けながら進めていく。

3 その他

○次回委員会

<石野委員長>

視察の日程は時期を考慮し各委員にお知らせする。

散会 ～11：15